

## 未来そうぞう科学習指導案

1年2組 榎本 博美

### 1. 単元名 Cだいすき しぜん「ヒメちゃんといっしょ」

### 2. 研究主題との関連

## 未来を「そうぞう」する子どもを育成するためのカリキュラム開発

#### (1) 単元について

本単元は、未来そうぞう科のC領域（広く社会や自然を対象とする内容）の中の、自然と関わることをテーマとした活動である。

子どもたちは、小学校に入学してから季節ごとに生き物にふれる体験をしてきた。その中で、生き物に関わる新しい発見をしたり、おもしろさを見つけ出したりといった経験を重ねてきた。これらの経験こそが未来そうぞう科のめざす「創造的実践力」を育むことにつながると考える。低学年では、特に創造力を育むために多くの経験をさせたい。それにより、中学年・高学年では、これらの経験・知識を活かしながら、様々な物事を関連付けることで新しいものを創造する力が発揮できると考えた。

本単元では、今まで偶然にふれあってきた昆虫などとは違う学校で飼育されているミニチュアホースのヒメちゃんはどう関わっていくかを考えていく。入学したときから当たり前に自分たちの近くにいるヒメちゃんについて、時々鳴いていたり、散歩で外に出ていると話題にすることはあったが、常に興味をもって様子を見に行くなどの姿は少なかった。2年生がヒメちゃんのお世話をしていることは、なんとなく知っている程度であった。次年度、ヒメちゃんのお世話をしていた2年生が3年生に進級すると、南運動場ではなく北運動場での活動になる。そこで、2年生から1年生にヒメちゃんのお世話を引き継ぎたいとの相談があった。2学期には、ヒメちゃんをもっと好きになってもらいたいとの願いから2年生が「ヒメちゃんまつり」に招待してくれた。実際にブラッシングやえさやりなどの体験をする、クイズなどでヒメちゃんをくわしく知るなどの活動を行った。この体験から、1年生全体でこれからのヒメちゃんと124期生との関係について真剣に考えることになった。命あるものに関わる責任についても伝え、子どもたちがきれいごとではなく正直な気持ちを出し合えるような場を設定した。その結果、引き継ぎたいとの意見が大半であったが、「怖い」や「休み時間がなくなる」などの意見がまだ解決できていない。「一度やってみないと分からない」という子どもたちの意見から、体験ではなく2年生と一緒に実際にお世話をする期間を設定した。その経験をふまえて1年生に再度真剣にヒメちゃんとの関係を考えさせる。

この体験をとおして、生き物に対する愛情や命あるものに関わる責任、さらにはそれぞれの感じ方や考え方の違いについて自分事として捉えながら課題解決に向かう力を育みたい。また、お互いの思いや考えを共有・受容するために、自由に話し合える雰囲気や場の設定を工夫する。

#### (2) 単元の目標

【創造的実践力】	
・これまでの学びや経験を思い出しながら、自分なりに工夫し、ヒメちゃんについて考えたり関わったりすることができる。	
【主体的実践力】	【協働的実践力】
・ヒメちゃんに興味を持ち、これまでの学びや経験を思い出しながら積極的に考えたり活動したりしている。	・友だちや2年生と関わりながら、自分とは違う考え方を知り、協力して働きかけたり活動したりしている。

### (3) 活動構成の仮説

- ① 実体験とそこから得た学びや課題を共有し、話し合いを重ねることで、想像を広げ、創造的実践力を育み、生き物への愛情や命の尊さへの気づきにつながる。
- ② 前時までの話し合いの板書、活動中の動画や写真を活用して、それまでの学びや経験を想起させることで自己評価し、さらなる工夫を生み出すことにつながる。

この実践では、自分とは違う立場の生き物であるミニチュアホースとどう関わっていくかを考えるとき、「観察する」「教えてもらう」だけではなく「実際に体験する」ことを重視する。この実体験が生き物への愛情や命の尊さに気づくことにつながると考える。また、みんなが自分と同じ考えや感じ方であるとは限らないことを知る場として自由に話し合える場を設定する。さらに、前時までの活動や話し合いを動画や写真を活用してふりかえり自己評価する時間を確保する。これらを繰り返すことによって、様々な考えを受け入れながら新しいアイデアを創造する力を育むことにつながると考える。

3. 指導計画（全 10 時間 本時 7 時間目）

■■■■ 必修

■■■■ 選択

■■■■ 毎時間

■■■■ 教師のすること

学習活動と問題意識	子どもの意識	評価の視点と方法			
		① 没頭	② 協力	③ 整理	④ レジリエンス
<p><b>1. ヒメちゃんまつり【2時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生がヒメちゃんまでつりに招待してくれる。</li> <li>・活動後ふりかえりをする。</li> </ul> <p>→ ヒメちゃんのことを色々知る。ヒメちゃんに親しみをもつ。</p>	<p>どんなことをしてくれるのか楽しみだなあ。</p> <p>ヒメちゃんに初めてえさをあげたよ。</p> <p>ヒメちゃんの近くにいったら、ちょっと怖かったな。</p> <p>ヒメちゃんのことを知って、お世話をしたくなったよ。</p>	<p><b>姿勢・表情</b> 対象に興味をもって活動に取り組んでいる。</p> <p>●積極的に活動に参加する(主)</p>	<p><b>写真・映像の蓄積</b></p>	<p><b>ふりかえり</b> ヒメちゃんとふれあってどう思ったのか、以前と感じ方はどうか変わったのか活動をふりかえる。</p> <p>●自分とは違う考え方を知る(協)</p> <p>●積極的に考えたり活動したりしている。(主)</p>	
<p><b>2. ヒメちゃんと124期生①【1時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生全体で、今後、ヒメちゃんと自分たちはどんな関係であるのがいいのか考える。</li> </ul> <p>→ 1年生全体で意見を交流することで、色々な意見の違いがあることを知り、今後どうしていくべきか考える。</p>	<p>ヒメちゃんがいなくなるのはいやだ。</p> <p>1年生がヒメちゃんのお世話を引き継げばいいと思う。</p> <p>もっとヒメちゃんを観察したらいい。</p> <p>お世話はしたいけど、近くで見たら怖かったからできないかも。</p> <p>お世話で休み時間がなくなるのはいやだなあ。</p>		<p><b>話し合い①</b> 学級ごとに話をしてから、学年全体で自由に話し合う。</p> <p>●自分とは違う考え方を知る(協)</p> <p>●積極的に考えたり活動したりしている。(主)</p>	<p><b>ゆさぶる</b> 子どもたちの本音を聞き出すために、わざと反対の意見を取り上げたり、教師から発してみたりする。</p>	<p><b>話し合い①②</b> 食い違う意見を同じ方向に向けるにはどうすればよいか、折り合いをつける、新しいアイデアを出すなど試行錯誤を繰り返す。</p> <p>●自分とは違う考え方を知り、よりよいものを作り出すために活動している(協)</p> <p>●これまでの学びや経験を思い出し関連させながら、自分なりに工夫し、ヒメちゃんについて考えている。(創)</p>
<p><b>3. ヒメちゃんと124期生②【3時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級でもう一度、124期生とヒメちゃんとの関係を考え、そのためにどんな活動が必要か考え、実行する。</li> </ul> <p>→ 2年生からヒメちゃんを引き継ぐのかどうか再度話し合い、そのために具体的にどう準備していけばよいか決め、実行する。</p>	<p>1年生がどんどんヒメちゃんのお世話を引き継いでいけばいいと思う。</p> <p>やっぱり怖いから、お世話ができるか心配。</p> <p>まだまだ分からないことが多いから、2年生に質問をしたい。</p> <p>2年生に教えてもらったことを紙に書いて教室にはっておけば、忘れないんじゃないかな。</p> <p>聞くだけでなく、実際にお世話をしてみたらいいと思う。</p>	<p><b>話し合い②</b> 学級でもう一度ヒメちゃんとの関係について話し合う。そこから、次にどんな活動をするのがよいかアイデアを出し合う。</p> <p>●自分とは違う考え方を知り、協力して活動している。(協)</p>	<p><b>ゆさぶる</b> 子どもたちの本音を聞き出すために、わざと厳しい意見を教師から発する。</p>		

#### 4. ヒメちゃんのお世話をしよう!

##### 【朝 + フリータイム + 昼休み】

・実際に2年生に教えてもらいながらヒメちゃんのお世話を体験する。

→2年生にヒメちゃんについて教えてもらうだけでなく、実際に休み時間を使ってお世話をします。

担当を決め、1か月間しっかりやりきること、2年生の助けなしでもできるようになることをめざす。

#### 5. ヒメちゃんと124期生③

##### 【5時間】

・ヒメちゃんのお世話を体験してみて、もう一度ヒメちゃんとの関係を考える。(本時)

→お世話をしてみての正直な気持ちを出し合う。

それを2年生にもぶつけてみることで、2年生の思いも受け止めながら、命あるものに真剣に向き合い、1年生なりの答えを出す。

うまくできるかな? ドキドキするなあ。

ここに道具があるんだね。なるほど。こうやって使うのか。

ええっ! こんなこともするの! 思ったより大変だなあ。

自分たちだけでできるかなあ。心配になってきた。

ヒメちゃんが喜んでみたいだな。

やっぱりヒメちゃんが怖くて、近づけません。どうすればいいですか?

お世話で休み時間がなくなるのは、嫌じゃないですか?

2年生は、ヒメちゃんのお世話はもうしたくないのかな。

2年生は、ぼくたちにどうしてほしいのかな。

ヒメちゃんにとって、どうしてあげるのがいいんだろう。

#### 実体験

実際にヒメちゃんのお世話をします。

●積極的に活動している。

(主)

●友だちや2年生と協力して、働きかけたり活動したりしている。(協)

#### リアルタイム

実際にお世話を体験してみてもの正直な感想や疑問を出し合い、2年生にそれを伝える。

●自分とは違う考え方を知り、協力して活動している。(協)

#### 当番表を作成

命あるものに対する責任を伝え、自主的に取り組めるように視覚化する。

#### 現状把握

お世話後の自動に感想を聞く等子どもたちに様子を把握しておく。

写真・映像の蓄積

#### 引き出す・現状把握

学年別で話す時間を取ることで、正直な思いを引き出し、その思いを把握して2年生につなげる。

#### 自由な話し合い

学年が混じり合い、自由に話ができる場を設定する。

#### 声かけ

把握した思いをつなげるファシリテーターの役割を担う。

写真・映像の蓄積

#### 実体験

うまくできないことでもあきらめずに取り組む。

●これまでの学びや経験を思い出し関連させながら、自分なりに工夫し、ヒメちゃんに関わっている。(創)

#### 話し合い③

2年生との考えや思いの違いを受け入れ、ヒメちゃんの立場にたった考えを出す。

●自分とは違う考え方を知り、よりよいものを作り出すために活動している。(協)

●これまでの学びや経験を思い出し関連させながら、自分なりの答えを出している。(創)